

平成30年度 第2回生駒市環境審議会 会議録

1 開催日時 平成30年8月30日(木) 9時30分～11時22分

2 開催場所 生駒市役所 4階 401・402会議室

3 審議事項

(1) 第3次生駒市環境基本計画の策定について

(2) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

会長 中西達也

副会長 水谷知生

委員 下村晴意 山田耕三 河瀬玲奈 藤澤清二 上武敏一 岡田博之

池田憲央 竹本和靖 矢田千鶴子 横井明弘 山本裕子

事務局 石畑欽一 地域活力創生部長

奥田吉伸 市民部長

川島健司 地域活力創生部次長兼環境モデル都市推進課長

竹本好文 環境保全課長

大窪奈都子 環境モデル都市推進課課長補佐

奥田和久 環境保全課課長補佐

木戸勇 環境保全課課長補佐

大熊啓文 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係長

竹田有希 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係員

オブザーバー 株式会社地域計画建築研究所 長澤、森野

バー

5 傍聴者 なし

9時30分 開会

6 審議内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

第1回目の審議会から少し期間が空いたが、その間、集中豪雨が発生した。身近なところで大きな被害はなかったが、広島、岡山、愛媛等における影響を後日報道で見て驚いた。自身が子どもの頃の梅雨はじとじとして暑いだけで、豪雨が降るということはほとんど記憶にない。ここ数年は梅雨になると豪雨がきて、亜熱帯になってしまったように感じる。今回の審議事項である環境基本計画には、自然のことや地球環境のことも含まれている。地球環境というと少し考えにくいかもしれないが、そういった身近な影響もあるということ意識していただき、遠慮なく意見を出してもらいたい。

(3) 委員紹介

事務局より前回の審議会以降、新たに就任された藤澤清二委員を紹介。

(4) 審議事項

以下、発言要旨。

- 中西達也会長** 会議の成立について事務局に報告を求める発言。
- 事務局** 会議の成立について報告。全委員14名のうち13名の出席により会議は成立。
- 中西達也会長** 事務局に傍聴者の報告を求める発言。
- 事務局** 傍聴者はなし。
- 中西達也会長** 案件1「第3次生駒市環境基本計画の策定について」審議を宣告。
- 事務局** 事務局に説明を求める発言。
- 資料1「第3次生駒市環境基本計画策定に係る審議会等における検討の手順」に沿って、今後のスケジュールを説明。第6章「計画の推進」については、10月24日に開催する第3回の審議会で議論いただく。11月中旬に開催予定の第4回審議会において、パブリックコメントの案を確認いただく。
- 資料2「第3次生駒市環境基本計画（素案）」に沿って、第3章～第5章を中心に説明。
- 中西達也会長** リーディングプロジェクトは最終的にいくつくらい挙げる予定にしているのか、との質問。
- 事務局** 現段階では、4つか5つくらいで考えている。策定中である第6次総合計画とも整合を図りながら、具体的にプロジェクトとして記載できる内容を今後精査していきたい、との回答。
- 中西達也会長** 委員に質問・意見をもとめる発言。
- 横井明弘委員** ①22ページの指標4 河川水質の箇所にかかれている「下水等や合併処理浄化槽の整備」は「下水道や合併処理浄化槽の整備」の間違いではないか。
- ②27ページにある生活環境の指標として「下水道普及率」がある。下水道整備と合併処理浄化槽の普及の両輪でいくと記載があるので、指標は「汚水処理人口普及率」にして、その内訳として「下水道普及率」と「合併処理浄化槽普及率」をつければいいのか、との発言。
- 事務局** 一点目の「下水道」については指摘のとおりなので訂正する。二点目の指標についても「汚水処理人口普及率」の方が妥当かと思われるので、担当課とも相談しながら検討する、との回答。
- 上武敏一委員** 「目標1 自然環境」の方向性①とその施策の中で、「生物多様性の保全」や「生きものの保全」との記載がある。美しい里山があるのは農家の方の努力が大きいと思う。今、農家にとって大きな問題となっているのは、イノシシやアライグマによる被害である。退治しないとイケない状況の中で、「生きものの保全」とあると、どう捉えればいいのか。今は一部の被害しか発生していないが、今後、徹底して取り組まないと大変なことになるのではないかと思う、との発言。

中西達也会長

「生きものの保全」と書くと、「生きものは大事にしましょう」としか読み取れない。他方で、里山を維持するために、イノシシの被害が問題になっている。事務局として整合性をどう図っていこうと考えているか、との質問。

事務局

イノシシを全滅させることはほぼできない。その中で、イノシシが生息する地域と人が生活する地域に分ける必要が出てくると考えている。例えば、農家区単位で柵をしたり、人が生活する地域との間に雑草が生えないようにしたりするなど、人が暮らす場所にイノシシが出てこないようにすることで対応する必要があると考えている、との回答。

上武敏一委員

田んぼごとに柵をつけると見栄えが悪くなるので、大きな谷筋などで囲うのがいいかもしれない。「里山の保全」としてそういったことを市として検討していくのであれば、文章としても盛り込むのかどうか。里山は農家の方の努力で保全されているので、市としてバックアップする姿勢を盛り込んでもいいのではないかと、との発言。

中西達也会長

方向性・施策で記載するのか、具体的な取組で追記するのか、工夫しながら次回までに表現を検討してもらいたい、との発言。

矢田千鶴子委員

①上武委員の意見にあった害獣に関しては、大きなタイトル部分よりも具体的な取組の本文等で触れた方がいいと思う。

②27ページの指標について。「再資源化率」は、環境マネジメントシステム推進会議でも議論になったが、すべてのものを資源化することはできないので、「再資源化の対象となるもの」をどこかで明記した方がいいのではないかと。

③37ページの市の取組にある「エコオフィス等による行政の率先行動」については、環境マネジメントシステムの運用と連動するような施策にしてもらいたい。

④同ページの「歩いて楽しいまちづくりの推進」に関連して、自転車の利用が増えているという現状がある。自転車も環境にやさしい移動手段の1つとして考えていかなければならないが、最近では、自転車による死亡事故も問題となっているので、その点も踏まえて記載できないか、との発言。

中西達也会長

「再資源化率」については、市民への啓発の意味でも対象を記載した方がいいのではないかと、ということであったが、事務局としてどう考えているか、との質問。

事務局

再資源化できるもので分かりやすいのは、瓶・缶・ペットボトル・プラスチック・紙ごみなどがあり、資源化に継続して取り組んでいる。今は対象にしていないが生ごみや剪定枝も経費をかければ再資源化できる。今対象にしていないものについてどう記載するかを含めて書き方を検討していきたい、との回答。

中西達也会長

エコオフィスの取組については、矢田委員の意見に即した対応をお願いしたい。

自転車も「自動車からの移行」としては意味がある交通手段であるが、自転車事故も問題となっている。その点も含めて、例えば「自転車道の整

備の検討」など記載できないか、との意見かと思うが、事務局としての考えはどうか、との質問。

事務局

自転車利用を考えたとき、ツーリングなど自転車に乗ることを目的としている場合と、日常生活で乗る場合の2つがあると思う。前者の場合、自転車道の整備は必要かもしれないが、後者の場合、自転車に乗る人のマナーが問題になる。市民への啓発を含めて考えていく必要があると思う、との発言。

矢田千鶴子委員

サイクリング用の自転車道の話をしている訳ではなく、国道・県道・市道等で路側帯を広げて自転車が安全に通れるようにしてもらいたいということである。車道を安心して走れるようにしてもらいたい、との発言。

中西達也会長

自動車からの移行として「自転車移動」という選択肢もあるので、可能であれば、それも含めて記載してもらいたい、との発言。

藤澤清二委員

①33ページに記載されている施策のうち、「大気汚染の防止」と「騒音対策の推進」として道路に関することも入れてほしい。

②大気汚染の測定は現在も実施していると思うが、今後も大いにやってもらいたい。

③竜田川の清掃にも参加している。今までは色々な魚がいたが、最近は鯉しかいない。目視では、水は透明に見えるが、測定した結果はどうなっているのか知りたい、との発言。

中西達也会長

大気汚染と水質の測定については、現在も実施されていると思うので、簡単に報告をお願いしたい。「騒音・振動対策の推進」で道路についても対応してもらい、との意見だったが、どう考えているか、との質問。

事務局

道路は年1回、市内13ヶ所で測定を実施している。大気汚染は調査項目によって若干違いがあるが、年12回、市内14ヶ所で実施している。

竜田川の水質については、本流で4ヶ所を12回、支流でも同じく12回実施している。「騒音・振動対策の推進」の箇所に道路についても追加を検討したい、との発言。

中西達也会長

水質については、10ページに推移のグラフがある。環境基準には達していないという理解である、との発言。

河瀬玲奈委員

①3ページにあるSDGsの記載について、公式文書では「17の目標、169のターゲット」となっているので、修正してもらいたい。

②27ページのコミュニティ分野におけるモニター指標について、目標値を設定しないのであれば、「参加者数」の方がより実態を把握しやすいと思う、との発言。

中西達也会長

SDGsの説明は訂正してもらいたい。モニター指標については、原案だと回数をたくさんして参加者数が増えればいい、という考えになってしまうので、検討してもらいたい、との発言。

上武敏一委員

38ページに記載されている「気候変動への適応策」について、具体的な内容として「ハザードマップを作成」となっている。広島・岡山・愛媛の水害を見ていると、国・県・市のいずれがするのは分からないが、築堤など事前の対策も入れてはどうか、との発言。

事務局

川や池の決壊など、色々な災害発生の要因がある。池は所有者が個人で

あることが多いので、個人に対して何らかの補助をしながら対策をしていかなければならないと思っている。環境基本計画にどこまで書くかは検討させてもらいたい、との発言。

中西達也会長

防災関連の施策について、「気候変動への適応策」になるのかどうか内部で検討してもらいたい、との発言。

下村晴意委員

13ページに記載されている「たけまる号の運行状況」について、本文の記載だけでは、「現状と課題」が市民に伝わらないのではないかと。

路線バスがないところに市がお金を出して運行しているが、高齢化も進んでいるし、もっと課題があると思う。もう少しきっちり書かないとわからない、との発言。

矢田千鶴子委員

生駒市地域公共交通活性化協議会に出席している。当初、コミュニティバスの運行経費に占める市の負担率は50%以下であったが、その状況では6路線のうち5路線の運行が困難となり、負担率70%以下まであがっている。コミュニティバスを運行できない地域では、代替交通を考えても試算するとコミュニティバスよりも高くなる。ワークショップの中でも、「市民の移動手段を市民力でどうするか」という議論があったので、現状と課題を記載する箇所ではあるが、市民に向けてのリクエストの記載があってもいいのかもしれない。コミュニティバスを利用できない地域からは、市の負担をそんなに増やしていいのか、という声もある、との発言。

中西達也会長

生駒市地域公共交通活性化協議会での議論は市民にアピールされているのかどうか、との質問。

矢田千鶴子委員

実施はしている。該当する地域の方は熱心だが、対象地域以外の方の関心は薄い、との回答。

中西達也会長

今議論しているのは、「環境基本計画」なので、たけまる号のことだけ突出して記載すると、バランスが悪いように思う。ただし、今の書き方だと、「6路線に拡大されている」というのは、良い方向に捉えられる。書き方に偏りがないようにしてもらいたい、との発言。

下村晴意委員

現状をもう少し追加した方がいいと思う、との発言。

山田耕三委員

11ページに「事業系ごみは2014（平成26）年度以降やや増加しています」とあるが、事業者数の増加が要因なのかどうかを明記したほうがいい。事業者が協力していないように受け取られる可能性があるので工夫してもらいたい、との発言。

事務局

事業者数の増加だけではなく、病院、スーパー、大きな飲食店等ごみの出やすい事業者の影響があるので、それもあわせて記載したいと思う、との発言。

水谷知生副会長

24ページの望ましい環境像について。「豊かな自然を活かす」という表現はいいと思ったが、目標とするまちの表記は「豊かで多様な自然に囲まれたまち」となっており、「活かす」というポジティブな方向性が反映されていないと感じた。例えば、「豊かで多様な自然を活かす」など、恵まれた自然環境をプラスに評価する形で書いていった方がいいと思った。どちらかというところ、「自然環境を保全し」など、消極的な関わりに見える。望ましい環境像で「自然を活かす」と打ち出すのであれば、全体的にもう

少し積極的な書き方に変更すれば全体の構成も変わってくるように思う。議論になった害獣被害についても、「農地」という自然資源をうまく活かすために被害をなくしていかなければならない、という風にすれば、一つの文脈の中で両方の視点が出てくる。30ページに記載されている3つの施策についてももう少し整理できないか。「生きものの保全」はストレートすぎるので、「自然資源の保全」としてまとめればどうか。自然資源があること自体が住環境を良くしている、という点も踏まえて、「うまく活かしていく」という目で見ると全体を書いていけばいい。そうすると、今はばらばらになっている方向性の①と②もつながる気がする。「活かし方」としてどういう側面があるのか、という点でまとめればいい。今は、自分がいるところと自然が別のところにあるように見える書き方になっている。「活かす」ことで持続可能なまちにつなげてもらいたい。

リーディングプロジェクトでも自然環境についての取組を何か1つ入れてもらいたい。「農産物の地産地消」など、方向性①②の両方に関わるプロジェクトがいいかと思った、との発言。

中西達也会長

指摘のとおり、打ち出している「活かす」の発想が、個々の話になると出てこない。害獣も「自然を守る」だと駆逐の発想も出てきにくい、「自然を活かす」だと結びつきが見えやすいかもしれないと思った。

今回初めて「望ましい環境像」が提示された。この点について何か意見はあるか、との発言。

藤澤清二委員

リーディングプロジェクトは、将来を見越したことを書いているので、それを実現する方向で書いてもらえたらいいが、住民にうまく説明できるようにしてもらいたい、との発言。

事務局

リーディングプロジェクトは、計画を推進するうえで、全体を牽引するようなプロジェクトである。市民・事業者と協働でできるような取組や、環境面だけに留まらず、社会面・経済面など、より幅広い効果があるようなプロジェクトを選定している、との回答。

中西達也会長

分かりやすくいえば「目玉」の取組である。そういうイメージをもっていたらと思う。望ましい環境像について、委員に意見を促す発言。

矢田千鶴子委員

端的でいい表現だと思ったが、地球環境のところで目標に「超低炭素」を掲げていることもあり、「低炭素」「脱炭素」がどこかに入らないのかな、という思いがある、との発言。

中西達也会長

「持続可能な未来」に低炭素も含めて大きなものが入っていると思う。「脱炭素」を入れた方がバランスを崩してしまう気がする、との発言。

矢田千鶴子委員

望ましい環境像を修正するのではなく、「持続可能な未来」につながる取組が地球環境にしか反映されていないように感じた、との発言。

中西達也会長

「持続可能な未来」を目標1～目標4の個々の取組のところでもう少し具体的に上げてほしい、という趣旨と理解した。事務局としては「持続可能な未来」は目標1～4にちりばめているという認識でいるのか、との質問。

事務局

直接的な言葉は使っていないが、その認識でいる、との回答。

矢田千鶴子委員

26ページのリード文でもう少し「持続可能な未来」の要素を組み込んで

もいいと思う、との発言。

中西達也会長

矢田委員の意見について、検討してもらいたい。

「望ましい環境像」は確定させていいか、との確認。

(委員全員の同意により、「望ましい環境像」は確定)

中西達也会長

29ページの施策体系についてもこれでいいかどうか、との確認。

事務局

水谷副会長の意見にあった目標1の「自然に囲まれたまち」という表現は変更したいと思う、との発言。

水谷知生副会長

目標3の「超低炭素」という表現が気になる。10年の間に実現できないとしても、目標としては「脱炭素」と掲げておく方がいいのではないか、との発言。

矢田千鶴子委員

今以上に低炭素社会を進めることを前提に、例えば、「再エネの地産地消で低炭素社会の進んだまち」とするのはどうか、との発言。

中西達也会長

水谷副会長の意見としては、目標なのだから高く持てばよく、「超」という表現で逃げるのはどうか、ということだと思う、との発言。

事務局

この点については、事務局の中でも議論があったが、珍しい表現を使うことで、インパクトがあると考え、案として提示した、との発言。

中西達也会長

実現できるかどうかは別にして、方向性としては「脱」を目指している、ということで検討してもらいたい、との発言。

河瀬玲奈委員

気候変動の言葉の使い方の歴史から言うと、研究分野では「脱温暖化」「脱炭素」が使われていた。大幅削減が行政計画に明確に記載され始めたのが2003年頃で、その時に行政においては「脱」の表現があまり好ましくないということで、それ以降、環境省では「低炭素」が使われるようになり、「脱」はあまり使われなくなった印象がある。その後、パリ協定を契機に、吸収と排出をバランスさせる「ゼロエミッション」が国際社会において合意され、「低炭素」ではなく、「ゼロ排出」「脱炭素」などの表現が復活してきたように思える。ただ、今までの経緯としては、あえて「脱」が使われなくなったという背景がある。これから、「ゼロ炭素」なのか「脱炭素」なのか、どのような言葉が使われるようになるのかを踏まえる必要がある、との発言。

中西達也会長

表現については、事務局で検討してもらいたい。

委員から他に意見がないようであれば、誤字や文章表現などについて意見を述べたい。

①12ページ冒頭にある「③地球環境」は「⑤地球環境」が正しい。

②同ページにある「太陽光発電設置補助事業の利用者数」の図と、太陽光発電システムの設置数増加を述べている本文が一致していない。

③10ページにある「竜田川のBODの推移」の図の意味が分かりにくい。本文で「環境基準は未達」とあるが、環境基準値である5mg/Lよりも上がいいのかが下がいいのかが分からないので、説明を追記してもらった方がいいかもしれない。

④12ページの「部門別温室効果ガス排出量の推移」の図にある「2010年度の排出係数を用いてCO₂排出量を算出した場合」の意味を分かりやすく掲載してもらいたい、との発言。

- 矢田千鶴子委員** 「第6章 計画の推進」を次回提示するとのことだが、人をどうやってつないでいくかも含めて考えてもらいたい、との発言。
- 中西達也会長** リーディングプランで取り上げるのか、第6章の体制の箇所で行き上げるのかは検討してもらいたい、どこかで上記の意見は反映してもらいたい、との発言。
- 中西達也会長** 案件1についての審議を終了。
案件2「その他」について審議を宣告。
- 事務局** 歩きたばこ等禁止区域指定に伴う取組状況について簡単に報告する。「歩きたばこ及び路上喫煙の防止に関する条例」に基づき、今年の6月1日に生駒駅周辺を歩きたばこ等の禁止区域に指定し、禁止区域で歩きたばこ及び路上喫煙を行った者の取締まりを開始した。5月末から、世界禁煙デーのイベントに伴う啓発や、駅前での事前周知の啓発活動を実施し、6月1日当日には、ベルステージにて、生駒駅周辺の事業者、地域住民代表の方と共に、禁止区域指定セレモニーを実施した。これまでの取締まり状況としては、6月は延べ17回の巡回を行い、15名に対して口頭での指導を、7月は、延べ6回巡回を行い、4名に対して口頭での指導を実施した。これまで、勧告・命令・過料等は行っていない。今後も引き続き取締まりと啓発を実施していく、との報告。
- 中西達也会長** 今後長期的に動向を見る必要はあるが、6月から7月で口頭指導の数が減少しているのはいい影響だと思う、との発言。
案件2についての審議を終了。
- 事務局** 次回、第3回審議会は10月24日（水）午前9時30分から、本日より同日401・402会議室で開催するので予定をお願いしたい、との発言。
- 中西達也会長** 資料は1週間前には送ってもらうようお願いしたい、との発言。
審議会の閉会を宣言。

11時22分 閉会